

# 9.30(sun) クロージングコンサート ～ピアノ+弦五部+トランペット～

開演/16:00 会場/弦楽亭 料金/2,000円

## Program

### I シューベルト：ピアノ五重奏曲 イ長調 D.667《鱒》

- 第1楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ
- 第2楽章：アンダンテ
- 第3楽章：スケルツォ（プレスト）
- 第4楽章：主題と変奏
- 第5楽章：フィナーレ（アレグロ・ジュスト）

シューベルトの代表作であるばかりでなく、古今の室内楽作品の中でも最も人気があるもののひとつです。Pf.Vn.Va.Vc.Cbという編成は同時代の作曲家フンメルと同じ編成の五重奏曲を参考にして書かれました。第4楽章に自作の歌曲「鱒」を用いているところからタイトルが付けられたこの作品は、シューベルトが24歳の頃、友人の歌手フォーゲルと共に北オーストリアからリンツまで避暑旅行をした際、その地で鉱山を経営していた知人パウムガルトナーの家に寄宿し、彼から作曲を依頼されたものです。最も有名な第4楽章は、マスと釣り人が繰り広げる生き生きとした光景が目に浮かぶような音楽です。冒頭は、マスが泳いでいる川を思わせるような滑らかなメロディーで始まり、これが元になって様々な形に展開していく「変奏曲」という形式になっています。1つ目の変奏のピアノのメロディーは、マスの動き、キラキラ…ピチピチ…とした感じが目に浮かぶようです。3つ目の変奏はピアノが両手でとても早いオクターブのメロディーを奏で、左手と右手で弾く鍵盤の動きが同じで、さながらマスと釣り人が追いかけてくをしているような、マスの数が増えたような感じにも聴こえます。4つ目の変奏はピアノが劇的な短調の和音を連打。マスが釣り人に追いつめられた様子を感じられる緊迫感に満ちたメロディーです。このように他の変奏もいろいろ想像しながら聴くととても楽しい気分になります。全5楽章から成り、5つの楽器が織り成す対話的立体性、各楽器の名技性、そしてリート作曲家の奥義である叙情性などを存分に味わえる作品です。

### I マルセル・ケンツビッチ：七重奏曲《鮭》

鮭は2001年1月、サンサーンスの七重奏曲op.75と同じ編成の新しいレパートリーとして、マルセル・ケンツビッチ氏により書かれました。マルセル・ケンツビッチとは元NHK交響楽団首席トランペット奏者の津堅直弘氏の作曲をする際のペンネームです。作品は鮭の一生を音楽で綴ったもので、稚魚が誕生して成魚になり、十勝川を渡って太平洋を遊泳、時が来て川をのぼりめでたく産卵、母はそこで命を終えるが、新しい命がまた川を下るといふストーリー。シューベルトの鱒のような鮭の主題が印象的です。そういえば鱒は鮭科の魚。十勝川の河口では、親戚どうしの鱒と鮭がすれ違う場面も盛り込まれています。

## Profile



### 白石光隆【ピアノ】

東京藝術大学大学院修了後、ジュリアード音楽院へ留学。ジーナバウカウアー国際奨学金コンクール入賞。学内のコンチェルト・コンペティションで優勝、リンカーンセンターでジュリアード・オーケストラと共演。帰国後、リサイタルを毎年開催する他、オーケストラとの共演や、室内楽でも活躍。NHK-BS、NHK-FM 等多数出演。CD「組曲『展覧会の絵』II【ピアノ】によるルロイ・アンダーソン」他リリース。現在、東京藝術大学ピアノ科、お茶の水女子大学文 教育学部非常勤講師。



### 矢野晴子【ヴァイオリン】

東京芸術大学卒業。全日本学生音楽コンクール第1位。桃花楽堂にて御前演奏。海野義雄、原田幸一郎各氏に師事。ベルリンにてイラン・グローニツヒ氏に師事。ヨーロッパ各地でコンサートを開催し好評を博す。ソロ、室内楽、様々なジャンルの音楽家達との共演、レコーディング、弦楽四重奏を中心としたオリジナル曲の制作または編曲等、幅広い活動を行っている。那須にある音楽ホール「弦楽亭」のオーナーの一人でもあり定期的なコンサートのプロデュースも行なっている。現在、東京、那須を拠点に活躍中。



### 山本大將【ヴァイオリン】

福岡県北九州市出身。東京音楽大学卒業。2000年 ミレニアムニュークラシックオーディション全国大会入賞。2006年 第8回 別府アルゲリッチ音楽祭に東京音楽大学シンフォニーオーケストラ選抜メンバーとして出演。2007年 Violin&Piano Duo【Alley oop】を結成し、7年間で約400公演のサロンコンサートを企画、出演。2011年より「癒しスポット提供委員会」を仲間らと設立し、定期的に復興支援チャリティーコンサートを開催。副代表兼音楽プロデューサーをつとめる。現在スタジオミュージシャンとして、アーティストのCD製作をはじめ、映画やドラマ、アニメやゲーム音楽などのレコーディングに携わり、音楽番組やPV、CMなどの撮影、舞台やミュージカルなどにストリングスメンバーとして参加している。これまでに篠崎永育、山岡耕策、三戸奏雄、小林武史、篠崎紀、トーマス・クリスチャン各氏に師事。



### 小林明子【ヴィオラ】

東京藝術大学音楽学部卒業、同音楽院修了。カールフレッシュア카데미、ライナソフィア王妃アカデミーなどで研鑽を積む。大泉文化むら賞受賞。現在東京都交響楽団ヴィオラ奏者。



### 矢野晶子【チェロ】

1993年東京芸術大学音楽学部器楽科チェロ専攻を卒業。在学中、イタリアのシエナにおける、キジアーナ音楽院サマーアカデミーに参加。その際、室内楽コースにてディプロマ賞受賞。また、大学主催の室内楽定期演奏会に出演。1994年公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。現在に至る。1997年、東京にてリサイタルを開催。好評を得ず。これまでに新日本フィルハーモニー交響楽団ともソリストとして共演。チェロを、吉田順、故郷江泰氏、三木敏之、堀了介、毛利伯郎、D.シャフラン、アラン・ムニエ各氏に、室内楽を、菅沼準二、R.ブレンゴラ各氏に師事。



### 村松裕子【コントラバス】

東京都出身。1997年東京芸術大学卒業。PMFフェスティバル参加。1998年新日本フィルハーモニー交響楽団入団。2000年 アフィニス音楽祭参加。2001年 ドイツ リューベック音楽大学入学。オーケストラ活動に加え、都内の小・中学校での演奏や指導の他、音楽作りワークショップリーダーとして幅広く活躍中。これまでに(故)江口朝彦、吉田秀、ヨルグ・リノビツ各氏に師事。



### 服部孝也【トランペット】

愛知県名古屋出身。1993年愛知県立芸術大学音楽学部卒業。桑原賞受賞。同年新日本フィルハーモニー交響楽団に入団する。1999年アフィニス文化財団海外研修生としてニューヨークのマネス音楽大学で学ぶ。またソリストとして新日本フィルとボッセの指揮でハイドンのトランペット協奏曲、ロストロポーヴィチ指揮でショスタクovichのピアノ協奏曲第1番を共演する。トランペットを竹本義明、津堅直弘、クリス・ゲッカー、ヴィンセント・ベンザレラの各氏に師事。現在、新日本フィルハーモニー交響楽団首席奏者。